

1 ごみ処理の概要

ごみ排出の状況:ごみ総排出量は微減、1人1日当たりのごみ排出量は横ばい。

ごみ総排出量 397,248 トン(前年度 387,986 トン) [2.4% 増]
 1人1日当たりのごみ排出量 987 グラム (前年度 956 グラム) [31 グラム 増]

ごみ処理の状況:

総資源化量(再生利用量) 62,594 トン(前年度 66,116 トン) [5.3% 減]
 中間処理による再生利用量 31,590 トン(前年度 33,053 トン) [4.4% 減]
 最終処分量 42,991 トン (前年度 43,930 トン) [2.1% 減]
 リサイクル率 15.9%(前年度 17.1%) [1.2ポイント減]

最終処分場の状況: 残余容量は、減少傾向。

残余容量 約 998 千m³(前年度 約 1,011 千m³) [1.3% 減]

(1) ごみの排出量

区分	P27ロー図との対応	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
人口(人)	-	1,136,360	1,128,454	1,119,318	1,112,034	1,102,870
計画収集人口	-	1,136,348	1,128,444	1,119,308	1,112,034	1,102,870
自家処理人口	-	12	10	10	0	0
ごみ総排出量(t)	-	403,721	405,934	397,394	387,986	397,248
計画収集量	A	348,409	347,733	341,518	332,865	331,414
直接搬入量	B	53,012	55,908	53,683	52,775	62,752
集団回収量	C	2,300	2,293	2,193	2,346	3,082
1人1日あたりのごみ排出量(g)	-	973	983	973	956	987
最終処分量(t)	M	52,192	49,729	47,677	43,930	42,991
直接最終処分量	D	2,483	3,308	2,463	2,418	1,701
焼却残さの埋立量	K	35,086	38,568	37,219	35,052	34,513
中間処理残さの埋立量	H	14,623	7,853	7,995	6,460	6,777
中間処理量(t)	-	376,474	378,146	374,051	363,962	374,237
焼却処理量	J	307,997	318,436	312,893	304,369	312,897
直接焼却量	E	293,492	304,118	298,903	290,617	298,444
中間処理残さの焼却量	I	14,505	14,318	13,990	13,752	14,453
焼却以外の中間処理量	F	68,477	59,710	61,158	59,593	61,340
粗大ごみ処理施設の処理量	-	3,497	3,646	3,596	3,273	3,562
その他資源化等を行う施設の処理量	-	48,508	40,125	41,734	41,325	43,242
その他施設の処理量(理立のための破砕・減溶化等)	-	16,472	15,939	15,828	14,995	14,536
総資源化量(t)	N	74,091	71,848	68,328	66,116	62,594
市町村による資源化量	-	71,791	69,555	66,135	63,770	59,512
中間処理後の再生利用量	L	33,815	32,166	33,084	33,053	31,590
直接資源化量	G	37,976	37,389	33,051	30,717	27,922
集団回収量	C	2,300	2,293	2,193	2,346	3,082
自家処理量(t)	-	273	255	231	213	0
リサイクル率(%)	-	18.3%	17.7%	17.2%	17.1%	15.9%

- (注)
- ・ごみ総排出量 = 計画収集量 + 直接搬入量 + 集団回収量
 - ・人口は各年度における10月1日現在の住民基本台帳人口。
 - ・集団回収量とは、市町村による用具の貸出や補助金の交付等で市町村に登録された住民団体によって回収された量のこと。
 - ・1人1日あたりのごみ排出量(g) = ごみ総排出量(t) ÷ 計画処理収集人口 ÷ 365日又は366日 × 10⁶
 - ・リサイクル率 = (市町村資源化量 + 集団回収量) ÷ (ごみ処理量 + 集団回収量) × 100
 - ・ごみ処理量 = 直接焼却量 + 焼却以外の中間処理量 + 直接最終処分量 + 直接資源化量

① ごみ処理のフロー

一般廃棄物は、市町村等により計画的に収集されるものと、住民から市町村等の施設に直接持ち込まれるものがあります。これらの一般廃棄物の処理は、そのまま直接資源として利用されるもの、焼却や破碎などの中間処理を経て資源化されるもの、中間処理を経て最終処分されるもの、収集後そのまま最終処分されるものに分かれます。それぞれの処理量は次のとおりです。

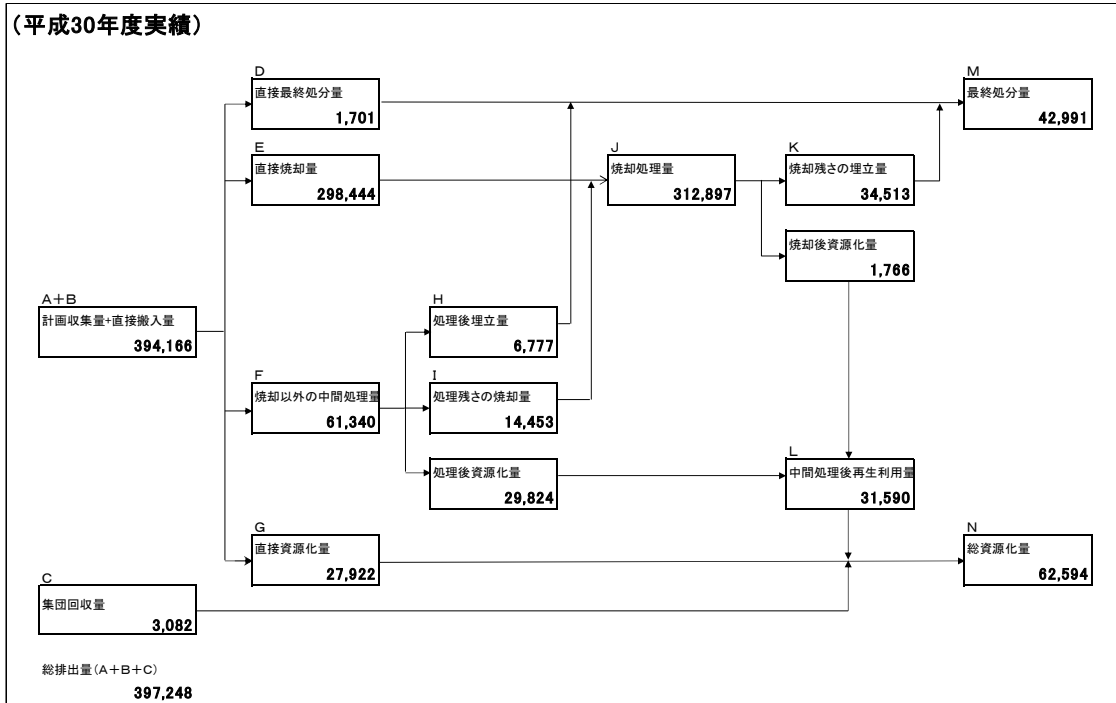


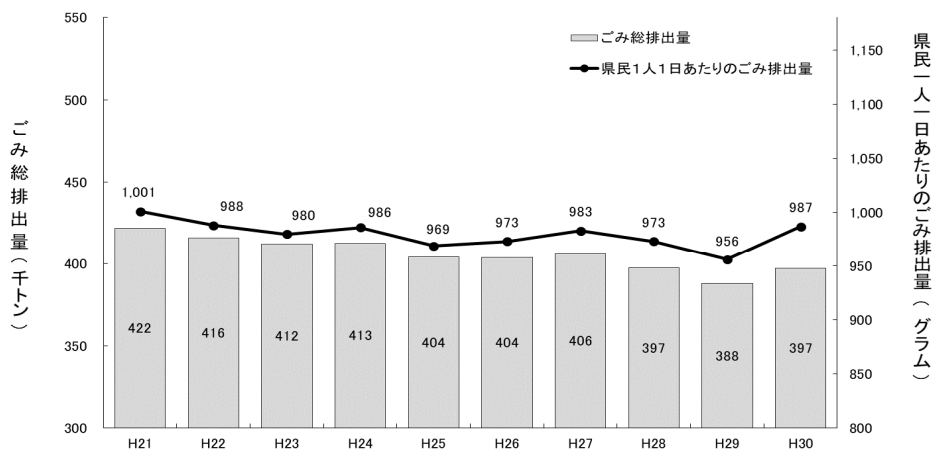
図 1 ごみ処理のフロー

② ごみの排出量

平成30年度のごみ総排出量は 397,248 トンで、前年度と比較すると約 2.4%増加しています。

1人1日あたりの排出量は 987g で、前年度から 31g増加し、全国値(935g)と比較すると、52g多い値となっています。

図 2 ごみ総排出量と県民1人1日あたりのごみ排出量の推移



③ 地区別ごみ排出状況

平成30年度の県内7地区毎の1人1日あたりのごみ排出量とリサイクル率は次のとおりです。

ごみ排出量が最も少ない地区は西都・児湯地域の716g/人・日で、最も多いのは都城・北諸県地域の1,134g/人・日です。リサイクル率については、西諸県地区が最も高く24.0%、最も低いのは、西都・児湯地区の12.3%となっています。

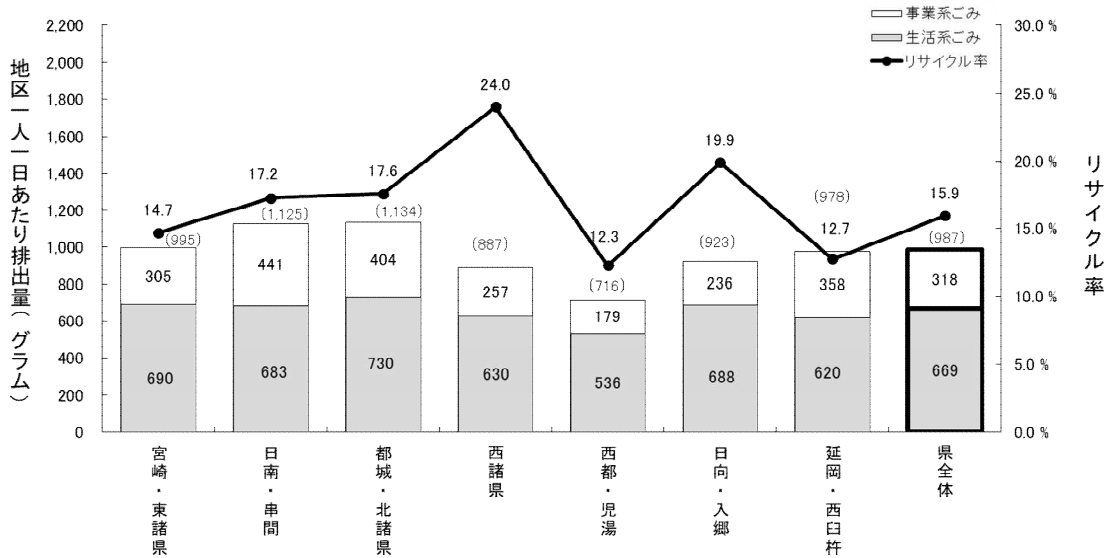


図 3 地区別の1人1日あたりのごみ排出量及びリサイクル率

(2) ごみ処理による減量化とリサイクル

平成30年度の市町村等による資源化量と住民団体等による集団回収量を合わせた総資源化量は62,594トンで、前年度と比較すると約5.3%減少しました。

リサイクル率は、前年度と比較して1.2ポイント低下し15.9%となっています。本県のリサイクル率は、全国値(20.4%)と比較すると4.5ポイント低くなっています。

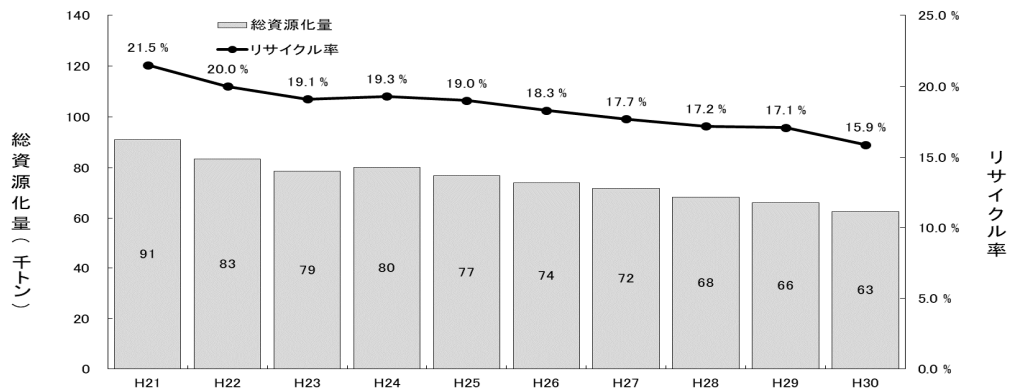


図 4 総資源化量とリサイクル率の推移

(3) 最終処分状況

平成30年度の最終処分量は42,991トンド、前年度と比較すると約2.1% (939トン)減少しました。

市町村及び一部事務組合等が設置し、平成30年度末現在埋立を行っている最終処分場は17施設で、全ての施設の残余容量の合計は約998千m³です。仮に、平成30年度の最終処分量が今後続くとした場合、最終処分の残余年数は、約19.0年となります。(埋立ごみ比重を0.8163とした場合)

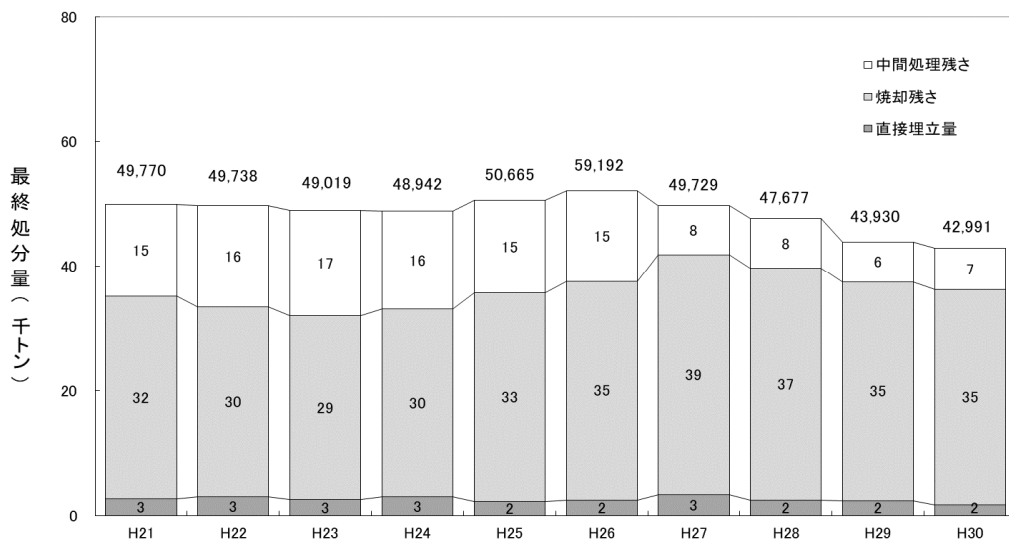


図5 最終処分量の推移

(4) ごみ処理事業経費

平成30年度の市町村及び一部事務組合等のごみ処理に要する経費(建設改良費を除く)は約128億円で、直近10年間ではほぼ横ばいとなっています。県民一人あたりに換算すると11,631円、ごみ1トンあたりに換算すると約32,941円となります。

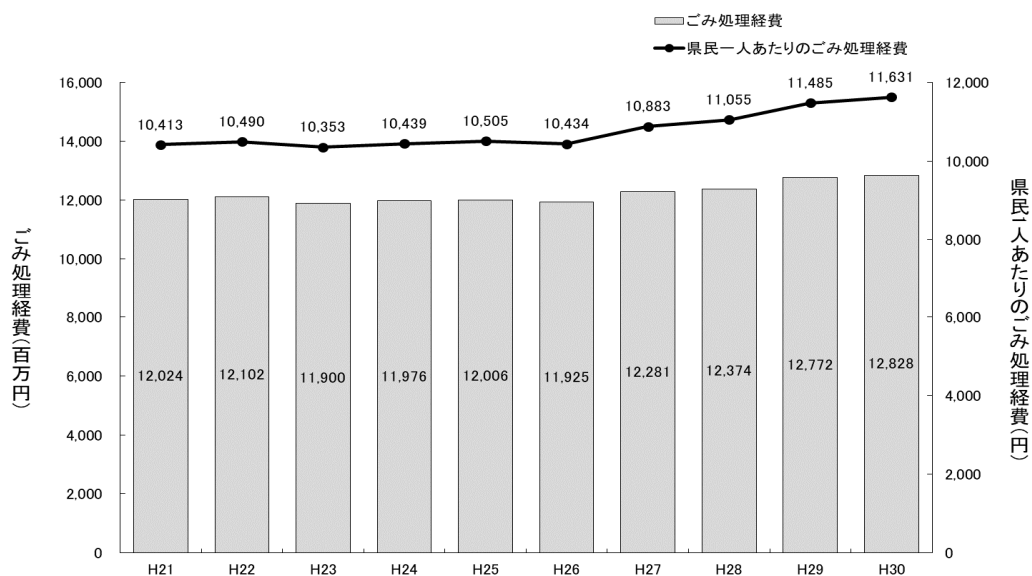


図6 市町村等のごみ処理経費(建設改良費を除く)と
県民一人あたりのごみ処理経費の推移